



今年正月の本部広前会堂
今年は一度でも多くご本部にお参りしよう
そしてお徳を頂こう

教会月報

あつた

金光教熱田教会

No.733 2020. 1

メール attakai@nifty.com

<http://attakai.life.coocan.jp/>

拝詞を明るく唱える

教会長

新年明けましておめでとうございます。今年はいよいよ一層「天地書附」を基にし、「体して」いく稽古を進めていきたいと思えます。

「体する」とは、そのものを心にとめて、さらには実行していくということです。「天地書附」を「体する」とは、「天地書附」をしつかりと頂いて、それを生活の上に現わしていくということです。

ご承知のとおり、「天地書附」は明治六年、教祖様が布教困難な状況に置かれたときに神様との間で生み出されたもので、いわば「逆境克服布教ツール」と言えるでしょう。金光教が今日置かれてある状況は、明治六年に教祖様が置かれた状況とは違いますが、逆境であるという点では共通するところがあると思えます。ですからこのツール「天地書附」を体して、有効に活用したいものです。

○ 教祖様は明治十年に「二つ、金光とは金、光ると書き、『明（あか）い方』はだれでも見ようが、おいおいには明い方へ人が来る」というお知らせを頂いておられます。私たちは金光の光を頂いています。ところがその私たちは、果たして「明い

方」になっているでしょうか。考えてみましょう。

先日ある人が、金光教のあるご祭典に参られたとき、「祭典中の拝詞を唱える声が、ゆっくりで暗くて沈んだ感じで、元気が出なかった」と話していました。「あのときの祭典は、とても『明い方』とは言えなかった」とも。そこで私は自分の拝詞の声を思い返してみました。すると、私の唱える拝詞の声も、決して「明い」とは言えないなあと思えました。落ち着いた感じや重みを出そうとして、低音で渋めの声で唱えるようにしていました。唱える向こうの神様、金光様も、難しい渋いお顔のイメージです。これは問題だと思いました。

そこである日から、声色を変えてみました。明るい感じの声で上げてみました。すると向こうにはニコニコと笑顔の金光様のお顔が浮かびました。『これだ、これではなくては…』と思いました。こちらが神様に向かって拝詞を唱えるのです。神様金光様が嬉しくないはずはない。御霊様もそうです。私の両親、先代夫婦がニコニコと喜んでいてはいないですか。

こうしたわずかなことから私たちの姿は「明い方」へと変わることができる。そう思います。どうぞ皆さんも、金光様や大切な人のニコニコとして笑顔を描いて、拝詞を唱えましょう。また、勢祈念では「天地書附連唱」ということも始めました。ご一緒に唱えましょう。

明けましておめでとうございませす。本年も一緒に信心を求めていきましよう。

今年の私の目標は、「実意をこめてすべてをたいせつに」「思いやり、心配り」です。

昨年の目標は「心のゆとりを持つ」「人にやさしく」「ありがとう」でした。手帳の一ページ目にこれを書いて毎日見るように心がけて過ごしていましたので、今年も続けて目標を書き、毎日見るようにします。

昨年の目標については、できたとは自信を持って言えませんが、意識して日々を過ごすことはできたのかなと思えます。

今年の目標の「実意をこめてすべてをたいせつに」という言葉は、四代金光様が色紙に書かれた言葉で、梅池ロジにも飾られています。私はこの言葉に日々の生活に大切な真

皆さん、夢を持っていますか？

鈴木 輝夫

髓があると思ひ、今年の目標にしました。「思いやり、心配り」は人の視線、気持ちになつて動かないとできないことです。私の足りないところだと思ひましたので、これも目標にしました。昨年の目標も永遠の目標だと思ひので、引き続き掲げたいと思ひます。

私は、昨年の十二月まで放映していた「同期のサクラ」というテレビドラマにはまりました。高畑充希さんのファンなのでドラマを見ていたのですが、これがとてもいいドラマで、毎週見るのが楽しみになって、終わった後は喪失感が強く、いまだにそれが抜けません。

高畑充希さんが演じる主人公は、故郷・新潟の島に橋を架けることを夢見て大手ゼネコンに入社しました。同期入社の人々の仲間は、あまりにも猪突猛進で真面目一方の主人公のペースに、最初はついていけないのですが、徐々にその筋の通つた信念に共感していくのです。仲間の大切さ、信念を貫き通すむずかしさを考えさせられるドラマでした。

主人公の言葉です。

「私には夢があります。故郷の島に橋を架けることです。」

「私には夢があります。一生涯に合える仲間を作ることです。」

「私には夢があります。その仲間とたくさんの人を幸せにする建物を造ることです。」

とても印象に残りました。

教祖様も、「私にも欲(夢)がある。世界の人を助けたい欲(夢)がある」と仰せになっています。

夢、目標を持っている人はとてもイキイキとしていて輝いて見えます。夢を持つということは、素晴らしいことだと私は思います。夢を持つていない人も、夢がある人を応援すること、それが自分の夢になると思ひます。夢を持って日々の生活をイキイキと幸せにしていきたいでしょう。

「私には夢があります。…」

この続きが気になる人は、私を訪ねてきてくださいね。



あけましておめでとうございませす。今年のお正月、金光教本部の参拝者は約七万人だったそうです！本部のお正月は一般の人たちがたくさん参拝されて、いつもの大祭のときにぎわいとはまた違ったにぎわいでとても新鮮です。(表紙写真)

そして、四日からは信

藝子です

行期間で三十一日まで毎朝、先生方が順番にお話しされます。テーマは「神人の道を開く」受けたおかげを人に伝える」ということで、私もこのテーマで昨年を振り返りたいと思ひます。

へという大きな出来事がありました。そんななか、私も新たなスタートの年であったように思ひます。金光教の教師にならせていただき、三十代に突入しました。そして、金光様のお宅での御用を頂き、日々修行させていただいています。そして改めて感じたことは、「天地の間で生かされている」ということ、「神様に心を向けていれば大丈夫」

ということ。

以前は多くの人と接する環境にいて忙しさにかまけていた私が、ほとんどの時間を一人で過ごすという環境に変わり、会話するのは自分のなかにいる自分か自然(笑)。そんな毎日を送るようになって、自分が天と地の間で生かされて生きているということを忘れていたなあと気づかせていただけました。

また、自然の素晴らしさや厳しさを感じ考えさせてもらい、自分は神様のお役に立つためにこうして命を頂いていることにも気づかせていただけました。そして今、毎日同じようなことをして当たり前で過ごす日々。でもそれを当たり前と思つて過ごすのと、毎日ありがたい気持ちでお礼をしながら過ごすのでは、一日の終わりがまったく違います。

毎日毎日神様に心を向けて過ごすことはやはり難しいです。でもそれが少しでもできたとき、小さな幸せが生まれます。そう感じられて気づかせてもらったのは、やはりこうした環境だったから。改めてこの環境でお育ていただけただけに一年に感謝で

す。

今年も一年信心のパワーアップができるよう修行させていたくださいます！よろしくお願いいたします。

令和元年信徒会講演会②

牧野教会在籍教師

服部貴子 師

地域との関わり方について

○地域と教会

牧野教会は震災を免れたので、戦後、避難場所や小学校の教室として使われました。そしてそれ以来、氏神様のお祭りもお仕えるようになりました。

今は都市化と高齢化が進み、住民も様変わりしていますが、地域とのつながりは大切にさせていただいています。町内会の集まり、老人の健康講座、警察署の防犯の集いなどにも積極的に教会の施設を使つていただいています。

近所に信者さんは少ないですが、近所付き合ひのなかで時折、「これを

お供えしてください」と言つて持つて来られる方もあります。やはり地域のことは大切に祈念させて頂いています。

そんななかでまれに信心を始められる方もあります。そのなかの一人Aさんのことをお話したいと思ひます。

○Aさんとの出会い

父が町内会長をしていたとき、Aさんは町内会の日帰りバス旅行に申し込んでいました。ところがある日教会を訪ねて来て、「体調が悪いから行けない」とのことです。「どんな様子ですか？」と尋ねると、「ふらふらして歩けない。ものが迫ってくる。鏡が怖い。お風呂も入れない」と言ひます。もともと離人症、強迫性障害もあり心療内科に通っていました。

「だったら、ここは神様だからお参りしてみたらどうかね」と言つたら「え、本当にいいんですか？」「まだ旅行まで一か月あるから、おかげ頂いて元気になったら旅行も行けるかもしれないし。毎日朝参りがあるから」と時間を教えました。すると次の朝から早速お参りに来て、それから

毎日、朝参拝が始まりました。AさんはBさんと二人暮らしで、籍は入れていませんが、独り者同士一緒に住もうと、少し前に二人で町内のマンションに引っ越してきていました。

毎日二人で歩いて参拝です。他のご信者さんと一緒に掃除もしていました。そして、一か月経つころには元気になり、バス旅行にも参加することができました。それからも二人の朝参りは続き、月例祭にも欠かさず参拝するようになりました。

○Aさんを通して知ったこと

Aさんは、幼い頃にお母さんを亡くし、物心ついたころから、お父さんに毎日物乞いに出されていたと言ひます。田舎だったそうですが、お金や物を恵んでもらうために集落を回らされたそうです。

一度結婚してお子さんもあつたのですが、精神的に不安定なため、ご主人から馬鹿にされるようになり、お子さんたちも母親と認めてくれず、追い出されるように家族と別れたとのことでした。それから名古屋に来て清掃員などの仕事をしながら暮ら

していたそうです。以来ご主人はもちろん、子どもさんとも会ったことがないということでした。

私のことを「お姉ちゃん」と呼んだりして、子どものような人でした。

ご信者さんたちには戸惑いもあったと思いますが、朝参りの後にお茶を頂いて話をするうちに、自然と受け入れていきました。

あるとき、花粉症で病院に行くと、たくさん薬を処方されてきました。関係のない検査もされたようでした。そこで「どうしてこの薬があるか聞いてもらんと教会の先生に言われた」とお医者さんに言ったら、「ピタリと薬がなくなりました。生活保護を受けており、本人に理解力がないので、ひどい扱いをされたようで胸が痛みました。こんな理不尽なことがあることもAさんを通して知りました。

教会に通ううちにAさんは大変明るくなり、お仲間ができてうれしそうでした。一見普通に見えますが食べ物を独り占めしようとするようなことがあり、随分冷たくもされただろうなあと思われました。教会

に来るうち、「今までこんなことをしてきたけどいかんかったね」と気づいて変わっていくこともありました。教会が安心できる場になっていると感じました。

○Aさんのお供え

月例祭に参るうち、「皆のように神様にお供えがしたい」と思ったように、Bさんがお菓子や果物を少し買ってきて二人でお供えされ、とてうれしそうでした。本当はご献備をされたかったようです。ご信者さんがお結界でお包みをお供えされるのを見て、「いいなあ。私もお供えがしたいなあ」と母には言っていたそうです。生活保護でも、普通の人な生活費の中から、少し節約してお供えできたかとも思いますが、そこが病気で、お金があれば使ってしまうのです。でも、月例祭のたびのお供えは、それは二人の真心だったと思います。

二人の朝参りは二年以上続いたと思います。だんだん元気になり、仕事が見たいという願いを持つようになり、体調もおかげを頂いて清掃の仕事ができるようになりました。

それからは朝参りはできなくなりましたが、仕事が見つかって喜んでいました。

今から十年前、立教百五十年の年には、ご本部参拝こそできませんでしたが、当時教会長だった私の祖母に付き添って、教会でお留守番の御用をしてくれました。浜松で公開講演会があったときは、張り切って二人で参加していました。

仕事をするようになってからは、やはり気苦労も増え、それから間もなくして、体調を崩して入院し、Aさんは亡くなりました。教会に通うようになって三年ほど経っていました。お葬式は生活保護者として区役所の世話で、近くの葬儀場の小さな部屋で、父母とほんの数名で通夜だけをして埋葬されました。

父は心を痛めて、Bさんに、またま様の祭りが大切なこと、またま様の立ち行きをお願いしていかなくてはならないことをお話しして、改めて教会でAさんの葬儀をお仕えしました。

そのときにBさんが、Aさんの持物のなかにこんなものがあつたと言

って、小さいピンク色のがま口を持ってこられました。その中には、小銭がいっぱい入っていました。Aさんが貯めていたものでした。お包みをする人を見てうらやましがっていたAさんですが、最後にちゃんと神様に自分のお金でお供えができたのです。そのお金は、神様にお供えした後、災害義援金と金光教の平和活動センターに寄付しました。そうしてAさんのお金が人のお役に立ち、神様へのお礼ができました。

生きているうちにはお供えができなかったけれど、願っていたらこんな形で神様がAさんのお供えを受け取ってください。これが神様のおはたらきということかと、Aさんを通して教えていただきました。

○難儀な人の助かりを願う

Aさんは、六十年ほどの人生で信心されたのは最後のほんの数年でしただ。でも、神様はAさんのことを幼い頃からずっと見ておられて、教会に差し向けられたのだと思います。

「世間になんぼうも難儀な氏子あり、取次ぎ助けてやってくれ」という言葉があります。しかしそう聞

いても何となく人ごとのように思えるかもしれない。しかし私はAさんと出会って「本当に世間に『なんぼうも難儀な氏子』がいること」「神様が、その人たちの一人ひとりの助かりを願っておられる」ということを実感しました。

またAさんは亡くなりましたが、これで終わりというわけではありません。みたま様としての立ち行きということもあるし、どこかにお子さんもおられます。その方たちのことは、私たちが引き続き願わせてもらわないといけないと思っています。

またBさんも一人になりましたが、元気に暮らしています。お参りには来られませんが、母が民生委員として、時々お部屋を訪ねています。地域のことといっても大したことではないですが、こういう難儀な人はまだまだおられると思います。そういう人の助かりをこれからも願います。またその願いを聞き取って神様が私たちの教会につかわされる人を大切にさせて頂き、お役に立たせていただきたいと願っています。



年末の最後の集会
お餅つき&プレゼント交換会
みな大喜びでした